

道指定文化財概要一覽(天然記念物)

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
渡島	森町	道	天然記念物	茅部の栗林	昭和43年1月18日	森町字清澄町12	<ul style="list-style-type: none"> ・天然栗は、主として本州以南のものといわれていますが、明治初年頃の森町一帯の海岸段丘(延長20キロメートル)は栗の密林でした。 ・当時は、食用はもとより、明治5年(1872)の森港棧橋の脚材利用のための大量伐採や鉄道の枕木、薪炭材等にも利用されるなどほとんど絶滅しましたが、現在の青葉ヶ丘公園地帯の栗は、馬つなぎの場であったために伐採をまぬがれて残存しました。 ・公園内には、130数本(うち、50数本が樹齢200年を超える老木です)が散生し、古くから「茅部の栗」という名で郷土民に親しまれ、今日なお公園の風致を増し憩いの場をあたえています。 	JR森駅より徒歩15～20分	森町教育委員会 0137-42-2186		森町1980『森町史』	
渡島	長万部町	道	天然記念物	二股温泉の石灰華	昭和40年6月14日	長万部町字大峯30番地 ほか	<ul style="list-style-type: none"> ・二股温泉の石灰華、いわゆる湯の華は、温泉中に多量に含まれた炭酸石灰成分が、温泉の地方湧出によって温度・圧力が低下し、水分も多少蒸発して沈殿したものです。 ・沈殿物は、堆積したり、あるいは鍾乳洞のように垂れ下がったり、種々の奇形を呈しています。また、その沈殿速度が大変速いので、わずか半月で様々な型の置物ができあがります。 ・長さ約400メートル、幅約200メートル、厚さ最大25メートルで、段丘上の丘をつくるこの石灰華の規模は、世界においてもアメリカのイエローストーン、マンモス・ホットスプリングの石灰華の他に例がなく、学術的に非常に貴重なものです。 	JR二股駅より10km	長万部町教育委員会 01377-2-2748	二股ラジウム温泉に隣接	リーフレット「長万部文化紀行」	http://www.town.oshamambe.lg.jp/
松山	乙部町	道	天然記念物	乙部鱈ノ岬の安山岩柱状節理	昭和47年4月1日	乙部町字花磯	<ul style="list-style-type: none"> ・鱈ノ岬(しびのみさき)は乙部町市街地から国道229号線を北へ12キロメートル離れた地点にあり、国道沿いから約450メートル日本海に突き出た岬で、岬の岩がマグロ(鱈=しび)のうろこのように重なっているところから、この名前がつけました。 ・この海岸は、第三紀(700万～100万年前)の輝石安山岩からなる柱状節理で、日高山脈の誕生と前後して地中から噴き出した溶岩が縦と横に流れ出し、一緒に冷え固まって柱状の束が縦横にできた珍しいもので、地質学的にも貴重な柱状節理です。 ・一帯は松山国立自然公園になっており、美しい柱状節理の崖は国道から望まれる景観の一つであり、春は桜が咲きみだれ、青鳩の生息地をはじめとする数多くの野鳥の楽園となっています。昭和47年(1972)に北海道の天然記念物に指定されました。 ・全長は約1.4メートル、翼長は約65センチメートルあり、尾は白いが黒くて長い風切り羽におおわれており、頭部は皮膚が露出し赤くなっています。 ・昭和27年頃には道内での生息数は約30羽程度でしたが、給餌などの熱心な保護の取組が功を奏し、道東地方には80か所余りの営巣地があり、平成6年には約450羽程度に増えています。 	函館バス花磯バス停から徒歩4分	乙部町教育委員会 0139-62-2253			
空知	夕張市	道	天然記念物	夕張の石炭大露頭	昭和49年12月6日	夕張市高松6番地1	<ul style="list-style-type: none"> ・この石炭の大露頭は、明治21年(1888)北海道庁の技師坂市太郎(ライマン探検隊の随員)により発見され、他に例のない見事な天然標本として教育的にも自然科学的にも貴重なものであり、北海道開発に多大な貢献をした石炭産業の記念物としても価値の高いものです。 ・炭層は、古第三紀石狩層、基底部にあっており、地表には6尺層(1.8メートル)・8尺層(2.4メートル)・10尺層(3.3メートル)の3層の石炭が現われ、この地方の石炭の様子を示しています。 ・指定面積は、1,138平方メートルで、現在はゆうばり石炭の歴史村にある石炭博物館と結び、公開されています。 	JR夕張駅から徒歩20分 中央バス石炭の歴史村ターミナル前	夕張市教育委員会 0123-52-3131			
空知	芦別市	道	天然記念物	黄金水松	平成14年3月29日	芦別市黄金町764番地 黄金水松公園	<ul style="list-style-type: none"> ・推定樹齢1700年のイチイの巨樹で高さは21m、幹周6.2m、枝張15mもあります。平成3年に報告された環境庁の『日本の巨樹・巨木林』では、同じ樹種の幹周で全国8位、道内2位の太さを誇っています。 ・このイチイの木は古くからその存在が知られており、上川と空知のアイヌの人々が交流の場の目印にした木とも言われ、上川アイヌの首長が、この木に住み着いていた、人に危害を与える黒蛇を退治したという伝説も語り伝えられています。 ・この木のある一帯は、かつて上班溪御料林と呼ばれ、昭和7年には帝室林野局が保存木に指定しました。 ・しかし、戦後、黄金地区の御料林が開拓の対象となり、土地が払い下げられようとしたため、この木に伐採の危機が訪れることを危惧した地元農家が、当時の芦別町役場に保存を訴え、昭和27年に黄金水松保存会が結成され、昭和40年代までに地元青年団による草刈りや清掃作業が行われてきました。 ・最近では、昭和61年から毎年6月に黄金水松公園まつりが行われ、地域のシンボルとして親しまれています。 	中央バス「芦別停留所」から旭川行きに乗車し、「3線」バス停で下車徒歩20分	芦別市星の降る里百年記念館 0124-24-2121	自由に見学できます。		
空知	滝川市	道	天然記念物	タキカワカイギユウ化石標本	昭和59年3月21日	滝川市美術自然史館 滝川市新町2丁目5番30号	<ul style="list-style-type: none"> ・この化石は、昭和55年(1980)8月に滝川市内を流れる空知川の河床から発見され、調査の結果、新種の海牛であることがわかりました。 ・タキカワカイギユウは、今から500万年前(前期鮮新世)滝川がまだ海だったところに生息したジュゴンの仲間です。体長は約8メートルあり、歯をもたず、やわらかな海藻を食べていました。 ・同じ地層からは、タカハンボタテをはじめ23種類の貝化石が確認されていますが、いずれも冷たい海にすむ貝の仲間であることから、当時の海は冷たい海流が流れていたことがわかります。また、花粉の化石にはブナやスギの仲間が多く見られ、陸上は現在よりもやや温暖・湿潤であったことを示しています。 	中央バス開発局前バス停から徒歩3分 JR滝川駅から徒歩20分	滝川市美術自然史館 0125-23-0502	滝川市美術自然史館 10:00～17:00 一般600円、高校生360円、中学生240円、小学生120円	滝川市教育委員会1984『タキカワカイギユウ調査報告研究書』	http://www.city.takikawa.hokkaido.jp/
空知	雨竜町	道	天然記念物	雨龍沼高層湿原帯	昭和39年10月3日	雨竜町338番地	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道の尾瀬」の名で知られる雨竜沼は、標高850メートルの台地に広がる高層湿原帯です。湖沼から湿原へ、さらに平原に変化する経過と泥炭形成の推移がよくわかり、学術的にも貴重な存在として注目されています。 ・東西4キロメートル、南北2キロメートルの湿原は、早春の融雪時には多数の池沼が連続して大きな沼となるので、ここから雨竜沼の名がつけられました。 ・7月の初め頃は、池沼が大小百数余の湖沼に分かれ、一帯は湿原植物・高山植物が群生するなど自然の宝庫となります。 ・南暑寒荘(山小屋)はシャワーも完備しており、宿泊も可能です。 	雨竜市街から車で約50分で南暑寒荘南暑寒荘から徒歩1時間30分	雨竜町農地商工グループ 0125-77-2248 雨竜町教育委員会 0125-77-2322 雨竜町観光協会 0125-77-2155	6月中旬から10月上旬までの期間、湿原まで登山できます。		

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
上川	当麻町	道	天然記念物	当麻鍾乳洞	昭和36年3月17日	当麻町開明4区	<ul style="list-style-type: none"> 昭和32年(1957)、石灰岩の採掘中に偶然発見された、全長135メートル、高さ7～8メートルの洞窟です。今から1億5千万年前、ジュラ紀に石灰岩を含む地層ができあがり、石灰岩の地層が想像を絶する長い期間に、地下水の溶蝕作用によって石灰洞窟となったのが、この当麻鍾乳洞です。内部は上中下の3段階に分かれており、さらに5つの部屋に区切られています。 この鍾乳洞の特徴は、不純物が少ないために結晶度が極めて良い状態にあり、透明度が高く、結晶の集合状態に規則性があることです。 洞内の鍾乳石の中では、氷のつららのように天井から下がるつらら石、天井から落ちる水滴がだんだん筒のように高くなっていく石筍、つらら石と石筍がつながった石柱、結晶がぎざぎざと柱状に並んでのびたながれ石(フローストーン)などが多くあり、長さ数メートル、直径数十センチメートルにおよぶものもあります。 中でも天井から同じ太さでパイプ状になっている鍾乳管は、世界でも珍しいもので、鉱物学的に他に例がない学術的価値があるものです。 	JR石北本線当麻駅下車タクシーで15分	鍾乳洞事務所 0166-84-3719 当麻町総務企画課 0166-84-2111 当麻町教育委員会 0166-84-2111	4月中旬～10月下旬 9:00～17:00 高校生以上 500円、小学生300円	http://www.town.tohma.hokkaido.jp/index.html	
宗谷	中頓別町	道	天然記念物	中頓別鍾乳洞	昭和32年1月29日	中頓別町字旭台24の2番地	<ul style="list-style-type: none"> この鍾乳洞は昭和8年(1933)に発見され昭和13年12月に文部大臣より天然記念物に指定され、その後、改正(昭和32年)により現在北海道天然記念物になっています。 北海道で最初に発見された鍾乳洞で、新生代第三紀(約2300万年～160万年前)の帆立貝やホッキ貝の仲間からなる貝殻石灰岩の中にできています。このような新しい地質年代の貝殻石灰岩の中にできた鍾乳洞は、日本では非常に珍しい学術上極めて貴重です。 地質が貝殻石灰岩層でできているので、鍾乳洞のでき始めは貝殻の水による溶解に始まり、洞穴の成長にしたがって多分に水の浸食を受け、急速に発展したものとされます。 一般の石灰岩に比べて貝殻石灰岩は非常に軟弱であるため、時代の新しいわりに洞穴が大きいようです。 洞穴が地表に近く、洞穴のある地表にすりばち状のくぼ地(ドリネ)が各所に存在し、降地下水の通路となり一気に洞内に流れ込む結果になったものと思われます。 洞内の状況は、立体的に三層の洞穴よりなり、東西方向に伸びる主洞と、それより直角方向に上下している最も新しい支洞と、その中間的な位置に両者と一段上下になっている支洞の三層になっています。 鍾乳洞の前には軍艦岩があります。軍艦岩は小さな貝類が海底で密集して堆積岩となり、地殻変動によって隆起し一大石灰岩をつくりあげたものです。 この軍艦岩のまわりは、6月下旬には芝さくらが一面に咲き、素晴らしい景観となります。 	宗谷バス中頓別ターミナルから車で5分	中頓別町教育委員会 01634-6-1111			
宗谷	豊富町	道	天然記念物	稚咲内海岸砂丘林	昭和46年4月21日	豊富町字稚咲内	<ul style="list-style-type: none"> サロベツ原野と日本海の間100以上の湖沼をはさま、幅1.6キロメートルから2キロメートル、長さ20キロメートルにわたって続く砂丘林で、海岸に帯状に生育しているカシワの木は、海面から吹き上げる潮風のため一様に裏になびいています。 日本海の荒波で造られた砂丘に自生したトマツを主体とし、エゾマツ、ミズナラ、イタヤ、センノキ、シナノキ等北方特有の樹種が混生している原生林です。 カシワ林は典型的な風衝型を示しているほか、他の樹種も海岸林の形態をなし、その立地の景観と共に特異なものです。 この原始林は野鳥保護区に指定されているため、ノゴマ、シマオオジ、オオシジギ、ミコアイサ、コマドリ、コガラなど百種余りに及ぶ小鳥の繁殖・棲息地で、四季を通じ年中小鳥の音が絶えることがありません。 	沿岸バス稚咲内バス停から徒歩15分 豊富町街から車で20分	豊富町教育委員会 0162-82-1355	自由に見学できます。		
宗谷	礼文町	道	天然記念物	礼文島桃岩付近一帯の野生植物	昭和34年9月11日	礼文町大字香深村	<ul style="list-style-type: none"> 西海岸元地地区にある巨大な桃岩の付近一帯には、日本でも珍しいキバナシャクナゲ、エソツツジ、シコタンソウ、チシマキンレイカ、エゾイキトラノオなど、高山のハイマツ帯よりも上位置に存在するものが見られ、レブンウスユキソウ、レブンソウ、レブンサイコ、レブンキンバイソウ、レブンシオガマなどレブンの名を冠する花をはじめ、多種多様な高山植物が繁茂しています。 桃岩を間近で見ることができる展望台から、南端の知床地区までは遊歩道が整備されており、西海岸の猫岩や、利礼水道の向こうに利尻富士を眺めながら約1時間半のトレッキングを楽しむことができます。 	フェリーターミナルから路線バス(元地行き)乗車。桃岩登山口で下車し徒歩。所要時間約30分。6～8月は1日3便の観光シャトルバスもあ	礼文町教育委員会 0163-86-2119	5月から10月まで、遊歩道の通行が可能です。	http://academic.jp/rakvo/	
宗谷	礼文町	道	天然記念物	レブンアツモリソウ群生地	平成6年6月3日	礼文町大字船泊村字鉄府	<ul style="list-style-type: none"> レブンアツモリソウは、ラン科アツモリソウ属の一種で、母種のアツモリソウがアジアからヨーロッパにかけて広く分布しているのに対し、日本では、礼文島にのみ生育している礼文島固有の植物です。 また、この姿・形的美しさからも貴重な野生生物であり、礼文島北部の鉄府地区が最大の生育地となっており、その群落規模からも学術的価値が高いとされており、平成5年には国内特定希少野生動物植物に指定され、国・道・町が一体となってその保護と増殖に努めています。 開花時期は、5月下旬から6月上旬というごく限られた期間で、保護区内の柵で囲った遊歩道のみ立ち入り可能となっています。 	フェリーターミナルから路線バス(須古頓行き)乗車、浜中下車し徒歩。所要時間約1時間。6～8月は1日3便の観光シャトルバスもあり。	礼文町教育委員会 0163-86-2119	開花期(5月下旬～6月下旬)のみ、群生地内の遊歩道を開放しています。	http://academic.jp/rakvo/	
宗谷	利尻町	道	天然記念物	利尻島のチシマザクラ自生地	昭和43年12月18日	利尻町仙法志	<ul style="list-style-type: none"> 昭和42年(1967)、利尻山南斜面に発見されたチシマザクラの群落は、他に例の少ない大きな規模のもので、 生育地はチシマザサにおおわれた急斜面で中心部の標高は約650メートルであり、利尻山としては森林限界に近いところでハイマツが見られる地域でもあります。 チシマザクラはミネザクラ(タカネザクラ)の変種でピンク色のきれいな花をつけるサクラです。花びらの先がほむこと、花や葉の茎に毛があることなど、いくつかの点で見わけることができます。 このサクラは南千島、サハリン、北海道及び中部以北の本州に分布する灌木です。 実は昭和8年(1933)にすでに地元の漁師によって、この場所は発見されていたようです。しかし、まわりの人に話をしても全く信用してもらえず、再びこの漁師さんが他の人を連れてこの場所に行くまで、このサクラのことは34年間、誰も知ることがなかったのです。 	船泊港からバスで	利尻町立博物館 0163-85-1411	営林署の入林許可が必要です。		

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
網走	北見市	道	天然記念物	温根湯エゾムラサキツツジ群落	昭和32年1月29日	北見市留辺蕊町字花丘	<ul style="list-style-type: none"> 温根湯温泉街から、無加川に沿って東へ約500メートルの丘陵斜面に7万株、28万本ものエゾムラサキツツジの純群落があり、5月上旬には山肌一面が赤紫色に変わり、遊歩道に一步踏み込めば、匂いたつような甘い香りに包まれ、天候や光線の加減によっては淡いピンク色や濃い紫色など多彩な表情も見せてくれます。 旧留辺蕊町の「町花」としても親しまれているエゾムラサキツツジは、毎年5月上旬に開花し10日前後に最盛期を迎えますが、この時期には「つつじまつり」も開催され大勢の観光客で賑わいます。 エゾムラサキツツジ群落は、明治32年の入植の頃、すでに生育していたものが自然繁殖し、現在のような純群落を成したものと見られます。現在は、温根湯温泉の春の観光スポットとしても定着しており、町民はもとより道内外の大勢の観光客に「つつじ山」の愛称で親しまれています。 	JR留辺蕊駅から徒歩 北見バス留辺蕊バス停から徒歩	温根湯温泉観光協会 0157-45-2921	5月上旬から下旬までの開花期間中、雨天以外は入園できます。入園無料		
網走	斜里町	道	天然記念物	斜里海岸の草原群落	昭和25年8月28日	斜里町美咲地先国有林	<ul style="list-style-type: none"> 斜里川西方の海岸、東西約2.5キロメートルにわたる自然草原の群落です。 6月から10月にかけてエゾスカシユリ、ハマナス、エゾカンゾウなど50種類をこえる野生の草花が観察できます。 花盛りは6月初めから7月末にかけてです。周囲は網走国定公園に指定され、遠方には斜里岳、海別岳、知床連山が見えるオホーツク地方の景観を代表する場所でもあります。 	JR知床斜里駅からタクシーで5～15分、自転車10～30分、徒歩30～90分	斜里町立知床博物館 0152-23-1256	自由に見学できます。	知床博物館1980『郷土学習シリーズ第2集・斜里海岸の植物』	
網走	斜里町	道	天然記念物	オシюнコシюн粗粒玄武岩柱状節理	昭和48年3月14日	斜里町ウトロ西地先国有林	<ul style="list-style-type: none"> この柱状節理はウトロの南西約5.5キロメートルに位置するオシюнコシюн崎にあり、その姿から「俵石」と呼ばれています。 ここに分布する第三紀中新世の頁岩層に粗粒玄武岩の岩脈が貫入するという地下でのマグマの活動に加え、オホーツク海の激しい風化作用によって岩石が浸食されて生まれた美しい縞模様特徴となり、横向きの柱状節理と岩柱に直角に発達する縞状構造が見られます。 チャラセナイ川のオシюнコシюнの滝も同じ粗粒玄武岩の急崖にかかるものです。 岩石標本、偏光顕微鏡切片を知床博物館で展示しています。 	斜里バスオシюнコシюнの滝バス停から徒歩1分	斜里町立知床博物館 0152-23-1256	遊歩道はありません。	知床博物館1989『郷土学習シリーズ第11集・知床半島の生い立ち』	
網走	遠軽町	道	天然記念物	白滝の流紋岩球類	昭和39年10月3日	遠軽町上白滝(国有林内)	<ul style="list-style-type: none"> 湧別川上流の左股沢沿い約100メートルにわたって露出している流紋岩球類は、本来、流紋岩質黒曜岩中に晶出した球類が、その岩体の下層に集積して、大型の球類のみで厚層を形成したもので、その最上層の黒曜岩は標高1147メートルのほぼ平坦な尾根を形成しています。 この部分の球類は最大径15センチメートル、平均5センチメートルの球状で、その断面は同心円構造を呈しています。おそらく黒曜岩溶融体の下層ほど岩体の冷却は遅く、多数の大型の球類を晶出し、また上層に发育した球類は次第に沈降し、その途中でも成長を続け大型になって下部に集積したものと考えられます。 流紋岩体中の球類構造はわが国の他の地域にもしばしば見られますが、この岩のように大型の球類だけが集合したすばらしい例は少ないものです。 	JR白滝駅から車で40分	遠軽町教育委員会白滝教育センター 0158-48-2963 網走西部森林管理署 0158-42-2165	一般公開はしていません。		
網走	湧別町	道	天然記念物	佐呂間湖畔鶴沼のアッケシソウ群落	昭和32年1月29日	湧別町字東	<ul style="list-style-type: none"> 鶴沼は佐呂間湖西岸の丁寧から南に1キロメートルの所にあり、吊り橋を渡るとすぐ指定地です。アッケシソウはアカザ科の塩湿地産の植物で北半球に分布しますが、日本では北海道の厚岸、風蓮、濤沸、能取、佐呂間湖畔に生育するほか四国の一部でまれに見られます。 日本では厚岸湖で初めて発見されたのでこの名前が付きましたが、現在、厚岸湖にはほとんど生育しなくなっているため文化財指定地では唯一のものになっています。 肉質の草本で枝は対生し、関節があり円柱状で高さ10～30センチメートルになります。葉は節節に小さく鱗片状につき、花は葉のわきに8月頃咲きますが小さくわかりにくくなっています。 春夏には緑色であり、秋には紅葉してサンゴ色となるために別名サンゴソウともいわれます。 	町営バス三里浜線南丁寧バス停から徒歩5分	湧別町教育委員会 0158-65-3132			
胆振	苫小牧市	道	天然記念物	樽前山溶岩円頂丘	昭和42年3月17日	苫小牧市字樽前(国有林)	<ul style="list-style-type: none"> 樽前山は、明治42年(1909)の噴火によってその頂上火口内に典型的な溶岩円頂丘(ドーム)が生成されたことで世界的に有名になった三重式火山です。 溶岩円頂丘のできる現象は、溶岩の粘性が大きいため起きるもので、溶岩が上昇してきて火口の外側にあふれることなく、円頂丘状に盛り上がってきたものです。 この円頂丘は、当時はまんじゅう形をしていましたが、その後、頂上部がやや低下して平坦になり、そのまわりに崩壊した岩石が堆積して杯を伏せたような形になりました。 樽前山の溶岩円頂丘は、特別天然記念物に指定されている昭和南山の溶岩円頂丘と、その生成機構(できるしくみ)や火山形態などをやや異にし、また、今世紀に生成されたものとしては、学術上世界的に貴重なものです。 	支笏湖畔から7合目まで車で約30分 7合目から外輪山・東峰まで約50分 シヤモナイ登山口から外輪山・東峰まで約1時間40分	苫小牧市教育委員会 0144-32-6111	登山道があります。	苫小牧市測候所1989『樽前山解説資料』	
日高	新冠町	道	天然記念物	新冠泥火山	昭和43年1月18日	新冠町字高江	<ul style="list-style-type: none"> 新冠泥火山は、新冠町市街地から北方約2キロメートルの地域にあり、国道235号線沿いに見ることが出来ます。 東西約300メートル、南北約1100メートルの地域に、大小合わせて8個の泥丘が配列しています。 泥火山は火山作用と無関係の油田地帯に見られるもので、背斜断層に沿って生じた亀裂を通じてガス、地下水が噴出し、これに伴った泥土が噴出孔を中心に堆積したものです。 昭和27年(1952)3月の十勝沖地震の際に、泥水やガスの噴出活動が見られ「日高新山」として注目を浴びました。その後、昭和57年(1982)3月の浦河沖地震にも活動し、学術的にも調査されています。 泥火山は、台湾、サハリンに見ることが出来ますが、日本国内では、新冠泥火山が注目されるものです。 現在でも大きな地震があった時には、山頂が隆起するなどの現象が見られます。 	JR新冠駅から徒歩20分 道南バスユースホテル前バス停から徒歩1分	新冠町教育委員会(郷土資料館) 0146-47-2694	軽種馬の放牧をしていますので、中に入るのは見学は出来ません。近くの駐車公園からご覧下さい。		

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
十勝	帯広市	道	天然記念物	帯広畜産大学農場の構造土十勝坊主	昭和49年12月6日	帯広市川西町西4線17番地	<ul style="list-style-type: none"> 十勝坊主は、数千年前の寒冷な時期に氷の圧力で土が変形して形成されたもので、現在まで残存しています。 これは、アルプスの氷河周辺(900～2000メートル)、日本アルプス等の高山帯に発見されていますが、台地上での発見は、北海道の道東地方以外での報告はありません。 十勝坊主は、直径1～1.5メートル、高さ0.5～1メートルの半球状の化石構造土といわれるもので、100個ほどが分布しています。 土の盛り上がり、運動会の玉ころがしの玉を半分に切ったような形状をしているところから十勝坊主と命名されました。 これは、地質学、土壌学上、貴重な標本となっています。 	十勝バス帯広畜産大学前バス停から徒歩10分 JR帯広駅から車で20分	帯広市教育委員会 0155-24-4111	自由に見学できます。		http://www.city.obihiro.hokkaido.jp/syugaigakusyuuubu/syogaigakusyuka/a320101gidebook.jsp
十勝	帯広市	道	天然記念物	大正のカシワ林	昭和43年1月18日	帯広市大正町445・446番地	<ul style="list-style-type: none"> 十勝地方には、かつて、いたるところにカシワの群落がみられましたが、開拓が進むにつれ次第に失われて、現在はその名残をとどめる程度になりました。 この地域は、平坦な火山灰土の丘地に生育している天然生のカシワ純林で、幅およそ72メートル、東西に長い林帯で、指定面積は4万平方メートルを占めます。 このカシワ林は、大正11年(1922)以来、防風保安林としてほとんどが自然状態のまま保存されています。 	十勝バス大正18号バス停から徒歩15分 JR帯広駅から車で40分	帯広市教育委員会 0155-24-4111	自由に見学できます。		http://www.city.obihiro.hokkaido.jp/syugaigakusyuuubu/syugaigakusyuka/a320101gidebook.jsp
十勝	帯広市	道	天然記念物	札内川流域化粧柳自生地	昭和37年4月3日	帯広市大正基線9・10号地先	<ul style="list-style-type: none"> ケショウヤナギは、隔離分布で知られる珍しい樹木でバイカル以東の東アジアに分布しています。 日本では、長野県の上高地を中心とする地帯と北海道日高の沙流川流域及び十勝西部が主な生育地となっています。 指定面積は、50906.34平方メートル、指定当時には、200～300本近くの樹木が生育していましたが、最近の調査では、更に数が減少しています。 これは、周りが堤防、畑及び砕石プラントに囲まれているため、幼木が根付くことがむずかしいと思われるためです。 枝は、斜め上に伸びる斜上性で小枝は全く毛が無く、冬期には美しい帯紅色になります。 幼樹や若い枝が開花期から、枝や葉の裏に厚い白ロウ質を分泌するので白く見えます。これが、化粧柳の名のおこりで、見分けるときの最も特徴的な生態的特徴です。 札内川流域上流の河川敷沿いには、まだまだ多くの化粧柳が見られます。 	十勝バス愛国バス停から徒歩10分 JR帯広駅から中札内方面へ車で30分	帯広市教育委員会 0155-24-4111	自由に見学できます。		http://www.city.obihiro.hokkaido.jp/syugaigakusyuuubu/syugaigakusyuka/a320101gidebook.jsp
十勝	上士幌町鹿追町	道	天然記念物	然別湖のオショロコマ生息地	昭和43年12月18日	上士幌町鹿追町	<ul style="list-style-type: none"> 然別湖に生息するオショロコマは、ミヤベイワナといわれ、北海道の河川に広く分布する他のオショロコマとは異なる特長をもっています。 湖のなかでプランクトンを食べるため、他のものよりえらとげの数が多く、もっとも大きな特長です。 湖を海に見立て、ヤンベツ川等の然別湖に流入する河川を溯上して産卵し、川から湖に下り成長します。 からだには美しい赤い斑点を持ち、成熟体長は25～30センチメートル、過去には60センチメートルを超えるものも生息していました。 現在は、北岸水域とそこに流入する河川が生息地として天然記念物に指定されています。 オショロコマは、現在鹿追町により孵化事業が行われています。 	拓殖バス然別湖バス停前	上士幌町ひがし大雪博物館 0156-44-2323 鹿追町教育委員会 0156-66-3300 鹿追町役場 0156-66-2311	湖畔に展望台があります。	前川光司1982『川と魚たちの歴史』(中公新書)	
十勝	更別村	道	天然記念物	更別湿原のヤチカンバ	昭和38年7月26日	更別村字上更別33	<ul style="list-style-type: none"> このヤチカンバは、灌木性のカンバでヒメカンバ類ともよばれ、主として北極のツンドラ灌木原が、今から数万年前の氷河期に十勝地方に入り、温暖となった後も、生育条件に適した更別湿原に遺存されたもので、高温多雨の気候条件のもと、種の固定化が進み、新種となったものと考えられています。 ヤチカンバの分布は、現在までのところ、更別村と別海町でしか発見されておらず、氷河期以後の極地植物の隔離と、種の固有化、地質学、地理学、気象学、進化学上きわめて意義があるものとされています。 	十勝バス上更別バス停から車で10分	更別村教育委員会 0155-52-3171	自由に見学できます。		
十勝	豊頃町	道	天然記念物	大津海岸トイッキ浜野生植物群落	昭和38年12月24日 昭和50年11月22日 地域一部解除	豊頃町打内	<ul style="list-style-type: none"> 大津海岸トイッキ浜は、大津市街から北東約2キロメートル離れた旧十勝川河口付近にあり、太平洋岸に面した幅90メートル、長さ2100メートルにおよぶ標高5～6メートルの砂丘の一角です。 喬木のない草原でコケモモ、ガンコウランなど多くの寒地、高山性植物を含み、他にヤナギラン、ウンラン、ハマナス、ハマエンドウ、コウボウムギ、オカヒジキ、クロユリ、スズラン、ムシヤリンドウなどがよく自然の保たれた状態で生育しています。 十勝沿岸の草原群落は、後背部に泥炭地、湿地を持つために複合した景観をなすものが多く、トイッキ浜はその代表的な一例とされます。また、群落の自然状態も極めて良く、北海道太平洋岸の代表的な海岸景観の一つとして学術上からも貴重です。 	JR豊頃駅から車で30分	豊頃町教育委員会 015-579-5801	自由に見学できます。		http://www.toyokoro.jp/07life/071event/index.html

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
十勝	豊頃町	道	天然記念物	大津海岸長節湖畔野生植物群落	昭和38年12月24日	豊頃町長節	<ul style="list-style-type: none"> ・大津海岸長節湖は、大津市街から南西約4キロメートルにある周囲約5キロメートルの鹹水湖で、太平洋と幅のせまい砂丘で隔られています。 ・指定地は、この砂丘上の町道と長節湖間にはさまれた幅250メートル、長さ500メートルの地域で、ハマナスを主とし、これにエゾカンゾウ、エゾキスゲ、ムシャリンドウ、センダイハギ、エゾスカシユリ、ハマフウロ、ヒオウギアヤメ、クロユリ、スズランなど多くの草種の加わった群落で、春から初秋にかけては花が次から次へと咲き競います。 ・この種の海岸草原群落は小清水海岸などオホーツク沿岸のものが良く知られていますが、この地域のものもまた、規模において劣るものではありません。 ・特に長節湖畔の群落にはシロバナハマナスを交えており、湖の静けさと相まって、広々とした景観に趣を添えています。 	JR豊頃駅から車で30分	豊頃町教育委員会 015-579-5801	自由に見学できます。		http://www.toyokoro.jp/O7life/O71event/index.html
釧路	厚岸町	道	天然記念物	厚岸床潭沼の緋鮎生息地	昭和47年4月1日	厚岸町大字床潭村字床潭	<ul style="list-style-type: none"> ・床潭沼は周囲約2.5キロメートル、面積約10ヘクタールで、深さはほとんどが2メートル前後の浅い泥炭海跡湖沼で、南北に長い十字形をしています。 ・周囲をヨシ、スゲなど多くの湿性植物で覆われた富栄養湖沼で、沼水に含まれる酸素の比率も高く、植物プランクトンで赤系統の色素カロチノイドを含むアオコと呼ばれるランソウ類などが豊富なので、緋色を出現させる緋鮎の生育には最適な沼です。 ・緋鮎はフナとワキンの中間種で、普通のフナのなかから突然変異によって体色の赤いものが出たといわれていますが、緋色を出現させるのは緋鮎の素質を持っているものだけで、孵化して1年は体色が黒いのですが、1年後に腹部から徐々に変化していきます。 ・昭和40年から緋鮎の生息調査が行われていますが、フナに対する緋鮎の出現率は1パーセント弱と低い割合なので、貴重な魚として保護されています。 	JRバス床潭バス停から徒歩3分 JR厚岸駅から約4km	厚岸町教育委員会(文化財) 0153-52-4040	一般公開はしていません。		
根室	根室市	道	天然記念物	ユルリ・モユルリ島海鳥繁殖地	昭和38年10月18日	根室市昆布盛	<ul style="list-style-type: none"> ・モユルリ島は根室市昆布盛岬より約3.9キロメートル、ユルリ島は同じく岬より約2.6キロメートルの洋上に位置し、両島とも海岸線の大部分は30～40メートルの絶壁をなし、岩礁で囲まれており、島上は起伏の少ない平坦な島です。 ・現在は無人島で、特にモユルリ島は、昔から人の居住がなく、北方系の海鳥の絶好の生息地となっています。 ・繁殖する海鳥類は北方系の代表的な種類で、主な鳥は、エトピリカ、ウミガラス、ウトウ、ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメなどです。 ・植物も300種が生育しており、北海道自然環境保全地域にも指定されています。 	漁船のチャーターが必要で、昆布盛漁港から約10分	根室市教育委員会 0153-23-6111	入島することはできません。学術調査等の場合、教育委員会の許可が必要です。		
根室	羅臼町	道	天然記念物	羅臼のひかりごけ	昭和38年12月24日	羅臼町共栄町105番地	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひかりごけ」はヨーロッパ各地、北アメリカ、ロシアなど北半球の高緯度地方に確認されています。 ・日本では北海道が一番多いのですが、埼玉県や長野県なども生育しています。国内では、北緯43度～44度の範囲で東西に細長く分布しています。 ・「ひかりごけ」は洞窟や岩の隙間などの暗いところを好みますが、その中の比較的明るいところには孢子体を持った配偶体(一親)が、そして比較的暗いところには、子の細胞である原系体が生育しています。 ・光り輝いて見えるのは原系体ですが、原系体は緑葉体を持った球状のレンズ細胞が集まって形作られています。 ・つまり、観察者の背面からの光を緑葉体を持ったレンズ細胞が受けて、それを反射させるため、萌黄色に輝いて見えるわけです。 ・5～11月まで観察できますが、見事に輝くのは6～8月です。 ・冬期間(12～4月)、ひかりごけは洞窟の天井から落ちる水滴により、氷の下となってしまいますが、洞窟内は地面からユキユキと生えた筍のような水筍と氷柱によって、見事な自然の芸術を見せてくれます。 ・マッカウスの洞窟は松浦武二郎が安政5年(1858)5月4日(旧暦)北海道探検の際に宿泊した洞窟として有名で、彼が岩壁に残した和歌が、戸川幸夫氏の筆により石碑として建てられています。 ・平成20年(2008)の洞窟入り口部分の落盤により、現在は立ち入りが一部制限されている。 	羅臼市街から徒歩20分 阿寒バス洞窟前バス停から徒歩2分	羅臼町郷土資料室 0153-87-2004 羅臼町観光課 0153-87-2111	5～11月まで観察できます。	神田啓史1971『北海道におけるヒカリゴケ: その生態と孢子発生』	
根室	羅臼町	道	天然記念物	羅臼の間歌泉	昭和43年3月19日	羅臼町湯の沢町6番地	<ul style="list-style-type: none"> ・「間歌泉」は昭和36年(1961)に温泉ボーリングを実施している際に噴湯して、確認されました。 ・噴湯する原理は諸説があり、はっきりとはしませんが、噴湯直前のボーリング管内の温度は水面下10メートルでは110度を越えています。 ・指定当時(昭和43年)は間歌時間、高さ等も一定していましたが、最近では乱れが生じており、ここ数年間は春先から秋にかけては噴湯しますが、11月～5月の間は休止しています。水位、水量、地熱の変動によるものと考えられていますが、はっきりしたことはわかりません。 ・平成8年の調査では、1時間30分に1回、高さ10メートル程吹き上げています。 ・「間歌泉」は、噴湯直後には水位、温度等も非常に低下しますが、その後水位の上下を繰り返しながら徐々に回復し、噴湯直前にはボコボコと沸騰した状態で水面の温度は99度前後に達し、一気に吹き上げます。 	羅臼市街から徒歩40分 阿寒バス、ビジターセンター前バス停から徒歩3分	羅臼町郷土資料室 0153-87-2004 羅臼ビジターセンター 0153-87-2828	自由に見学できます。		